平成26年度文部科学省「実践的防災教育総合支援事業」

奄美の子どものための

防災ノート

奄美市教育委員会

『奄美の子どものための防災ノート』の発行に当たって

～防災ノートで考えてほしいこと～

平成23年３月に発生した東日本大震災は，２万人近くもの死者・行方不明者を出しました。自然災害の前に，私たち人間がいかに無力であるかということを痛感させられました。

一方で，岩手県釜石市の小・中学生は，99.8％という高い生存率を示しました。釜石にも大津波が襲来し，千人を超える方々が犠牲になったにもかかわらず，釜石の子どもたちの多くは無事に生き残ることができたのです。

これは運が良かったからではなく，大震災以前から防災に関する学習に積極的に取り組んだり，家の人や地域の方々と避難訓練を行ったりしていたからです。

当時の避難の様子が写真に残っていますが，小学生の手を引いて逃げる中学生，保育園児を抱きかかえた中学生，車いすを押している男子中学生の様子が写っています。正に，日頃の学習の成果を十分に発揮した結果であると言えるのです。

奄美も自然災害と全く関係ない場所ではありません。毎年のように台風が来るし，平成22年には豪雨災害が発生しています。奄美群島沖では大きな地震が発生することも想定されています。

自然災害が発生しても，小・中学生の皆さんが主体的な判断と行動で自らの命を守り抜くことができるよう願いを込めて，この防災ノートを作りました。

～家庭，地域と共に～

「奄美の子どものための…」と名前を付けたこのノートですが，家庭や地域でも是非活用してほしいという願いも込められています。

東日本大震災後，東北地方に昔から伝わる「津波てんでんこ」という言葉がクローズアップされました。「津波の時には，てんでばらばらで逃げろ！」という言い伝えです。

釜石市では「ウチの子は絶対に逃げているから，自分も逃げました。」と回答した保護者が他の町と比べて多かったそうです。実は，そのことが親子共に生存率が高かった理由だと言われています。しかし，この「津波てんでんこ」は日頃から家族や地域で話し合いをもち，信頼し合っているからこそできることだと言えます。

子どもたちがどれだけ防災について考えても，周りの大人たちの防災意識が低ければ十分な対策を取ることはできません。

このノートは実践的な防災教育のスタートの契機にするものです。学校や家庭，地域でも防災について話し合う機会を多く持ち，家庭や地域が一体となって，防災力の向上につなげていってほしいと願っています。

奄美市教育委員会

目　次

『奄美の子どものための防災ノート』の発行に当たって

1　「もしも…」の時のためにみんなで考えておこうでぃ！～自然災害に備えて～ ……1
2　奄美の自然災害を考えてみようでぃ！ ……2
3　台風のことを考えてみようでぃ！ ……3
4　大雨・土砂災害のことを考えてみようでぃ！ ……4
5　地震・津波のことを考えてみようでぃ！ ……5
6　液状化現象のことを考えてみようでぃ！ ……6
7　地域のことを知ろうでぃ！ ……6
○　防災マップづくり ……6
○　図上訓練（ＤＩＧ） ……7
○　海抜標示調べ ……7
○　「過去の災害」インタビュー ……8
8　避難訓練をやってみようでぃ！ ……10
○　避難訓練について考えよう!! ……10
○　時と場合を考えた避難 ……10
○　緊急地震速報装置を使った訓練 ……11
9　防災についていっしょに考えてみようでぃ！～専門家との連携～ ……12
○　名瀬測候所の出前気象教室 ……12
○　大島支庁土木課の土砂災害出前講座 ……13
○　奄美市役所危機管理室の取組 ……13
○　ＭＢＣ放送ボランティア出前授業 ……13
○　奄美市小・中学生防災キャンプ ……14
○　防災家族会議を開こう!! ……14
10　避難所生活について考えてみようでぃ！ ……14
○　避難所生活について ……15
○　復旧・復興に向けて ……17
○　応急処置についての学習 ……17
11　自分たちの取組を記録しようでぃ!! ……18
○　避難訓練や実習（応急処置等）の記録 ……18
○　家庭や地域での防災活動の記録 ……18
○　防災家族会議の記録 ……19

■　参考資料 ……20
■　災害用伝言ダイヤルの使い方 ……21